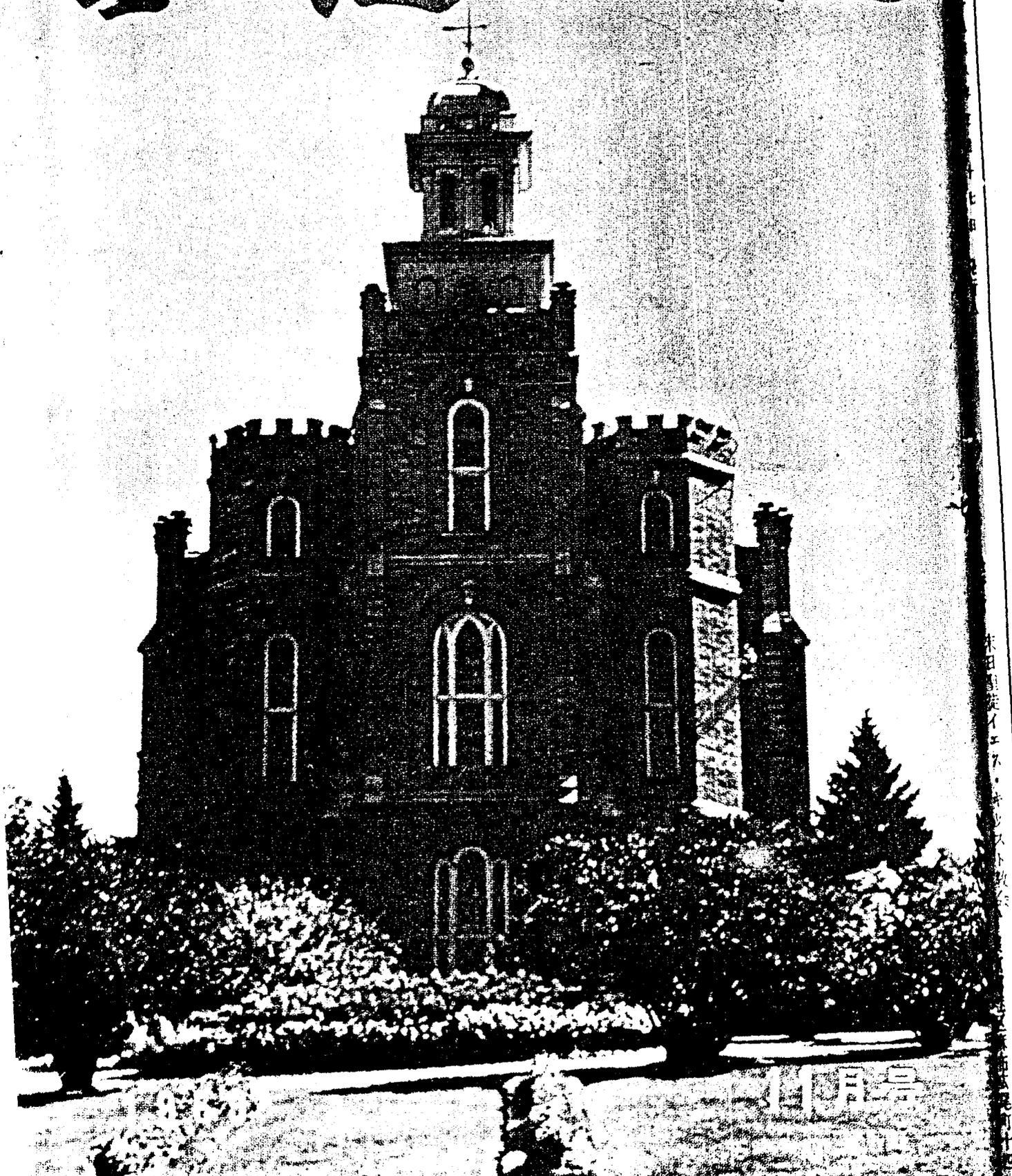


道の徒の聖



末日聖徒イエス・モリスト教会

末日聖徒イエス・モリスト教会

表紙の説明

丘の上の霊的な光

—ローガン神殿建造75周年—

ローガン神殿の敷地はブリガム・ヤングの指示のもとに1877年5月18日、金曜日に奉獻された。オルソン・プラット長老が奉獻の祈りを捧げた。続いて月曜日になると、チャールス・O・カードが神殿建築委員会の会長に任命され、開墾の仕事はラルフ・スミスの指導のもとに5月28日に始められた。8月にソルト・レーク市のジョン・パーリーはこの建築のための石工頭に任命された。

地質学者はこの神殿は本当の丘の上に建てられているのではなく、初期にへこんだボネヴィル湖によって生じた段丘の上に建てられていると云っている。故に、神殿の建てられているところを機械でうがっても、千フィート位までは固い岩にぶっかる事はないであろう。この地域は砂、粘土、砂岩から出来上っている。

ブリガム・ヤング大管長は1877年8月29日逝去されたが、首石は9月18日、十二使徒会の会長であったジョン・テイラーの指示のもとに据えられた。

土台と神殿のための岩石はグリーン・キャニオンから採り出され、神殿の装飾に必要な白色の砂岩はみなフランクリンにある石切場で得られた。

1877年11月22日神殿の土台の壁は地下から地表まで出来上がったが、冬期に入ったため仕事は一時中断された。しかし、峡谷内の仕事は続行され、雪によってむしろ石切場からの岩石の運搬はより容易となった。

このようにして仕事は続行され、1882年の終り頃までには、正確に12月22日には、最後の神殿の塔が完成された。

1883年11月21日長い病をわずらっていたチャールス・C・リッチ長老（十二使徒であり、神殿建築委員会会員）はアイダホ州のパリスの自宅で死亡した。彼はこの神殿の地方のすべての聖徒たちに愛され、親しまれた人であった。

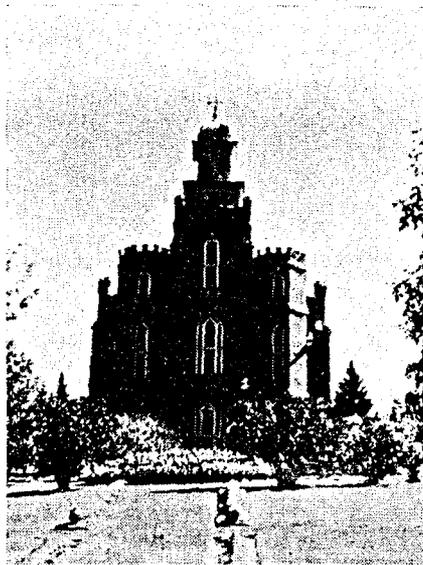
1884年の春には多くの人がこの完成間近い神殿を訪れた。威厳と荘重さをもったローガン神殿は1884年5月17日ジョン・テイラー大管長により献堂された。献堂式は日曜日と月曜日にも行われた。特別な献堂式のための楽譜も書かれてアレキサンダー・ルイス指揮の下に選ばれた合唱団によって歌われた。

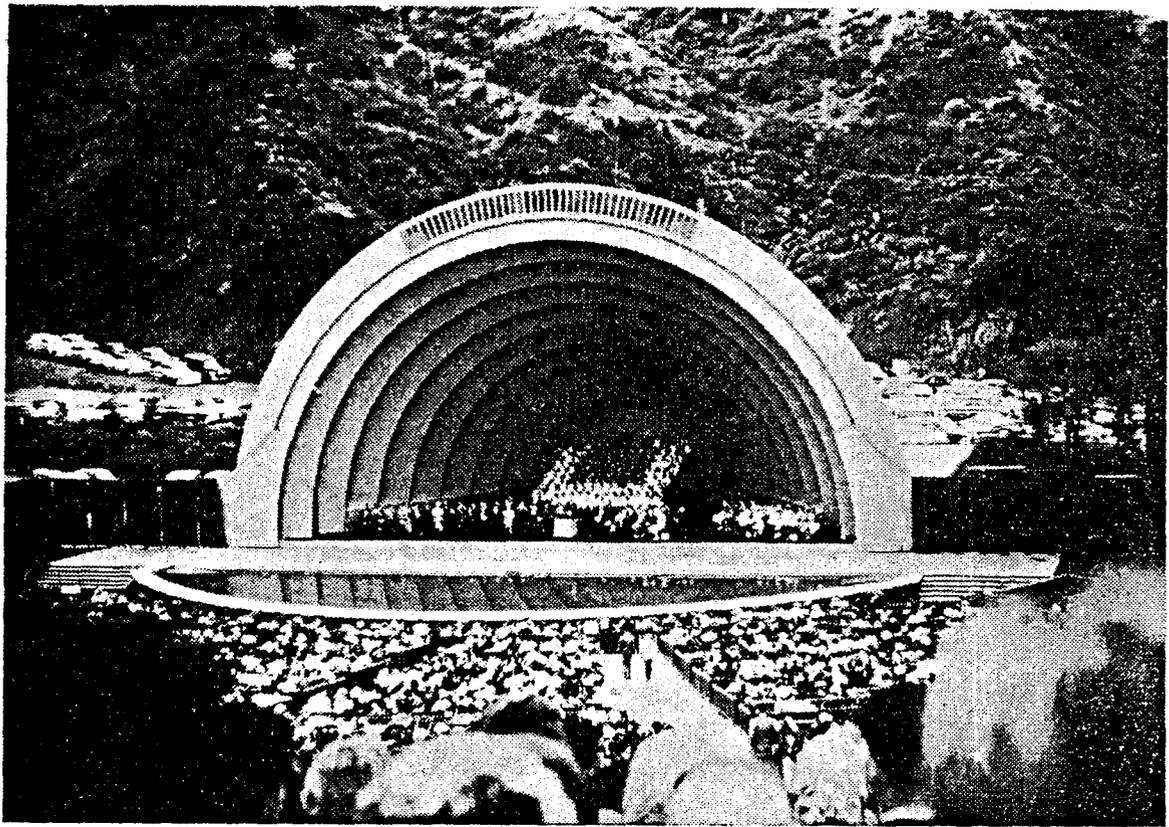
土曜日の献堂式の模様について、デゼレト・ニュースは次のように報じていた。

「約千四百名が出席した。神殿の管理役員たちは夫々の召しに従って着席した。すなわち、メルケゼデク神権所有者は東側に、アロン神権所有者は西側に着席した……」。

7年間の犠牲と協力の結果、遂にローガン神殿は完成したが、神殿が建てられる真実の目的は1884年5月21日水曜日にその中で儀式が始められる事によって成就された。

この神殿の中に入って儀式を受けたすべての人たちは大いなる霊的な賜物と祝福に与り、すでに建築完成以来75年を経過したのであるが、今日でもこの聖なる儀式はここで執行され、天の祝福は万人に与えられようとしている。





ハリウッド・ボールに於る教会の集会 (V・ガス・ノーマン長老撮影)

聖徒の道

目

次

一九五九年十月号

【予言者のことば】

祈りの力……………大管長 デビッド・O・マッケイ…2

【伝道部長メッセージ】

感謝の月……………ホール・C・アンドラス……………5

【イスラエルの散乱と集合】(モルモンの教義)

……………佐藤竜猪…8

【極東に於けるモルモン】

私の 改宗……………福田 真…12

私の 体験……………片山富夫…13

△系 図▽

ウエスターガードの系図……………

T・C・ウエスターガード…15

今月の出来事

ジョン・テラーの誕生……………21

ヒーパー・J・グラントの誕生……………21

ジョセフ・F・スミスの誕生とその他……………22

千八百三十一年十一月大会……………23

回復された福音に生き抜く

金兄弟霊界に召さる……………24

人生と宗教……………張 彩 霞…22

信仰後の感想……………呂 玉 雲…22

「準備」……………ストーリーング・W・シル……………17

札幌支部から……………小城 理子……………14

モルモン教物語(二五)……………

梶山兄弟宣教師に任命さる……………

伝道本部だより……………31



予言者のことば

祈りの力

大管長 デビド・O・マツケイ

人々の祈りが効果のある祈りであるためになくてならぬものであると私
が考える徳は数多くある。効果のある祈りをするに当って真先きに最も重
要である徳は信仰である。神を信ずるならば身も霊も平安になる。神はわ
れらの父であって、その御前へ慰めと導きを得るために出ることができ
るといふ確信は決して間違いない慰めの源である。

もう一つのなくてはならないものは崇敬の念である。この徳は救い主が教
えたもうた模範の祈りの中で「御名の崇められんことを」(マタイ伝六〇
九)と言って例示されている。この原則は特にわれらの祈りの家で例示さ
れなくてはならない。

三番目になくてならない要素は誠実である。祈りは霊の切望である。祈
りは愛ある父なる神の御許へ直接に送られる心の便りである。祈りの言葉
は単に口から出る言葉ではなくて、無限なる神と同調している愛情のある
心である。誠実な祈りということの中には、われわれがどのような祝福ま
たは徳をねがい求める時にも、われわれはその祝福を受けるために努力を
し、またその徳を養わなくてはならぬという意味がこもっている。

次になくてならぬものは忠誠である。君が心から神の王国の確立を助けたいという思いを胸に抱いているのでなければ、神の王国の来るのをねがい求めて祈る理由がないではないか。主のみこころが為されるように祈って、次にそれを実践しようとしなければ、直ちに反対の答えが与えられる。君が今要求している事に対してそうした態度を示した子供の願いを、君は何も聞き届けてやらないであろう。もしわれらが或る目的または或る企てが成功するように祈るならば、明らかにわれらはそれに同情をしている。神のみこころが為されるように祈って、次に神のみこころとわれらの生活とを一致させないならば、それこそこの上ない不忠実である。

最後になくてならぬものは謙遜、すなわち上べだけの、偽善者の行う見せかけではなくて、心からまた独善のないところから湧き出す謙遜である。自尊の心は一つの美德であるが、己ぼれの心は禁制である。祈りの際に、謙遜である原則は、神の導きが必要であるという感じを人に起させる。独立独行は一つの美德であるが、それは上からの助けが必要であるという自覚を伴わなければならない。それはすなわち君が義務の道をしっかりと歩いた足どりで歩いている時にも、うっかりした間違いを起すこともあるという自覚であって、その自覚と共にその失策を避けるよう神が靈感を与えたまえという嘆願すなわち祈りがある。

わが教会の若人たちが信仰を有ち、且つ祈りのうちに天にまします彼らの父なる神に近づくならば、その場ですぐさま彼らの受ける四つの大きな祝福がある。

その第一は感謝の心持ちである。彼らの身も霊も神が彼らのためになさったことに対する感謝で一杯になるにちがいない。彼らは自分たちが豊かな恵みを授けられているのを悟るにちがいない。背後の扉を閉ぢ、カーテンを下ろし、沈黙の祈りの中に助けを与えたまえと神に乞い願う若人はまず自己の健康、友人、愛する者たち、福音、および神の存在を証する示現等を感じ感謝する心持ちで自己の心をうち明けなくてはならない。

祈りによって受ける第二の祝福は導きである。私は天にまします父と密接な交わりをたえず続けている青年男女が道を誤ったりまたは大いに墮落したりすると考えることができない。もしも末日聖徒が心から、人の見えないところで、自分の同胞に対するねたみと恨みの感情をことごとく彼の心から取り去りたまえと神に祈るならば、彼がその心にねたみの心を抱いていると私は考えることができない。

三番目の祝福は確信である。教育を得ようと熱心に努めている無数の学生たちに、もし彼らが学課に及第したいと思ふなら彼らの神に求めなくてはならぬこと、また世界最大の教師が近くに立って彼らを導きたもうことを教えようではないか。

学生たちが祈りを通して主に近づくことができる。一度感ずるならば、彼は学課を覚えることができる、自分の演説の用意をすることができる。仲間の学生の前に立って恐れも失敗もなしに伝えるべき言葉を述べることができるという確信を受けるにちがいない。心からの祈りを通して確信が生ずる。

また、祈りをする者は靈感を受ける。われらは神に近づくことができ、神から光と導きを受けることができる。またわれらの心が明るくなり、われらの身も霊も「みたま」によって感激に震えるということは空想ではない。ワシントンはこの靈感を求めてそれを見出した。リンカーンもそれを受けた。またジョセフ・スミスもそれを知っていた。靈感はただその目を開けて見、その心を開いて悟るすべての者に現われる。

主の祈りは、祈りの模範としてわれらに教えられている。次に、マタイ伝の第六章に記してある主の祈りを部分的に分析しよう。

「天にいますわれらの父よ」とは父なる神の存在を承認することである。神に来る者は、神の在したもうことを信じなくてはならない。

「御名の崇められんことを」とは尊敬の念を表わしている。

「御国の来らんことを。御旨の天の如く……」とは神の

御国が地球上に確立するようにといい嘆願であると共に、地には平和、人には善意をもたらすために心から協力をするといふ約束の意味を含んでいる。

「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」とは、われらの生存は全く神に依存していること、すなわち少くともわれらが絶えず努力をするときあらゆる場合に神の助けと導きが必要であることを認めている。

「われらに負債ある者（われらに罪を犯したる者）をわれらのゆるしたる如く、われらの負債（罪）をもゆるしたまえ」、これによってわれらのゆるしは全く他人の罪をゆるすときのわが心の誠実さとそのゆるしの程度次第で定まる、すなわちわれらは、われらに罪を犯した者をゆるす程度に比例してゆるしを受けるにちがいない。

「われらをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」とは、一般に認められている上からの力が強さと導きとを与えたまえといふ謙遜な心の切なる願いである。

われらが人目につかぬ場所に於いて、家族の中に於いてまた教会の集りに於いて祈りを捧げるための準備をするに当り、以上のことをよくよく考えるよう祈る次第である。



感謝の月

ポール・C・アンドラス

十一月は昔から感謝を捧げる伝統的な月であります。今年もまた十一月になりますから、大騒ぎをしている日常の仕事の中で一息ついて、私たちの受けている感謝すべきいろいろな事をよく考えてみるのもう一度私たちの為すべきことであります。本当に末日聖徒は感謝することをたくさん有って居ります。

末日聖徒は地球上にしかも今日この時代に住んでいる特権を有難く思うことができます。地球上に住んでいる無数の人々が無神論の暗黒と人の作った信仰の中でそのはかない生活をようやく送っている間に、末日聖徒は完全なままに回復された福音の輝やく光に照らされて生活して居ります。無数の人々が目的も希望もなしに生活している間に、また莫大な数の人々が人生はそれが要求する努力に働かないと思いきんで絶望のうちに自殺をしている間に、末日聖徒は人生の目的を理解して、また人生はどんな努力が必要であっても充

分生きる価値があることを知って喜んで居ります。イエス・キリストの真の福音という立派な真理を理解していますから、末日聖徒は生きる特権を感謝する念に満たされています。

末日聖徒は神がどんなお方であるかを知っていますから、生きていることを有難く思っています。末日聖徒は永遠なる父である神が一人の人にましますことを知っております。その神はまことに骨肉から成る具体的体と人類と同様の感情とを具えた一人のお方でもあります。それでも、末日聖徒はこの偉大なお方が体も性格も完全なお方であることを認めて居ります。このお方は全知全能であり、義を以て宇宙を支配し、その「聖きみたま」の媒ちによって宇宙のいたる所と絶えず接触したもう。このお方はこれらのすべてであるがそれでも一人の人にまします。さらに、あらゆる人の中で最も偉大なこのお方は全地の上に住む一人のこらざる人の霊を生みたまう

た文字通りの父であります。このお方は私たちの父でありますから、私たちはこのお方の子供であって、この世に住む前の世に住んでいたときに一つの大きな家族を作って一しょに生活してました。あなたは過去に於てもあなたとして存在してました。また私は過去に於ても私として存在してました。そして神は過去の世に於て私たちの父でありましたが、今もなお私たちの父であります。この父はその時に私たちを愛して下さいましたが、今もなお私たちを愛して下さいます。神についてこのような知識をもって居りますから末日聖徒は生きていることを有難いと思つて居ります。

末日聖徒は自分がどのような者であるかを知っていますから有難く思つて居ります。あなたは自身がどのような者であるかご存じですか。末日聖徒は人類が偶然に生じて發達したのではないことを知つて居ります。末日聖徒は一人一人の人間の生命はこの世に生れたときから始まつて死ぬときに終るものでないことを知つて居ります。末日聖徒は一人一人の人は不滅であつて常に生き通しであることを知つて居ります。また人類が神から生まれた文字通りの息子と娘であつて、この世に生まれる前の世に於て私たちはみな天にまします私たちの父なる神と母なる神のみも一つの家族を作つて任んでいたことを知つて居ります。また末日聖徒は自分たちが神の息子や娘たちであることを知っていますから、自分たちが神の王国に於て王子であり王女であることを知っています。また神の眞の教会の会員でありますから、自分たちが神の王国の民であることを知つて居ります。自分たちに就いてこのようなことが解つて居りますの

で、末日聖徒はなおさら生きて居ることが有難く思えるのであります。

末日聖徒は自分たちがこの地球上に住んでいる理由が解つていすから有難いと思つて居ります。末日聖徒はこの世の前の世に於て天にまします私たちの父なる神が、その子供たちが成長し進歩發達してついに父なる神が、現在まします通りになることができる一つの計画をその子供たちのためにおつくりになったことを知つて居ります。また末日聖徒は、自分たちがこの世に來たいとねがい、それを神がお許しになったので、この世へ來て骨肉の体を受け、そして父なる神がおつくりになった偉大な計画に従つて地球上に住むことを許されているということを知つて居ります。モルモン教会の会員たちは、人生は學校であつて試しの時期であることを知つて居ります。また末日聖徒は、たとえこの世の生活が短くても、自分たちの行うことと生活をして行く態度とは、現在から永遠に亘り自分たちの身分に深い影響があるにちがいないことを知つて居ります。また末日聖徒はもしも自分たちが神の命令と福音の教えをいつも変らず忠実に守るならば、天にまします私たちの父なる神が必ず自分たちを守り助けて人生のあらゆる試練と患難にうち勝たせたまい、ついに現在父なる神がまします通りになつて共に永遠の生命を樂しむようになることを知つて居ります。末日聖徒はこれらのことがみな解つて居りますので、この地球上に住む特權を有難く思つて居ります。

末日聖徒はイエス・キリストがどのようなお方であるか知つてい

ますから、生きていることを感謝して居ります。末日聖徒は、この世の前の世に於てイエス・キリストは天にまします父なる神から最初に生れた御子でありましたことを知って居ります。イエス・キリストはその大家族の中の長男であつてエホバと呼ばれていました。またイエス・キリストは父なる神がその子供たちのためにおつくりになつた計画を賛成なさいましたから、その偉大な計画を遂行するために父なる神から任命をお受けになりました。父なる神の委任をお受けになつたので、イエス・キリストは地球を造つて最初の男と女とを地球の上にお置きになりました。イエス・キリストはこの地球の神でありまた旧約聖書にあらわれている神であります。イエス・キリストとエホバとは同一のお方であります。父なる神の御計画に従い、イエス・キリストは肉に宿つた父なる神の独り子としてこの世にお生れになりました。イエス・キリストは自ら進んで贖罪の業を為しとげ、そしてもし人類が悔い改めるならば全人類の罪悪が赦されることのできるようになさいました。また死にうち勝ち、自らの復活によつて、無条件の贈りものとして全人類が骨肉を有する不滅の体をもつことのできるようになさいました。また天に昇りそこで父なる神の右に坐してこの世界を統べ治めておいでになります。イエス・キリストは父なる神と共に予言者ジョセフ・スミスを訪れたまい、この予言者ジョセフ・スミスを通して地球上にイエス・キリストの眞の教えを再び確立なさいました。イエス・キリストの眞の教えが形となつて表われているのが末日聖徒イエス・キリスト教会であります。イエス・キリストは間もなく能力と光榮とを帯

びて天からお降りになつて親しく地上にあつて統治したもうのであります。そして、モルモン教会の義しい会員たちは、キリストが来りたもうときにキリストに逢うため空中にとり上げられ、キリストの王国に於てキリストと共に統治をするのであります。末日聖徒はイエス・キリストについてこのような貴い知識をみな知つて居りますから生きてゐる喜びに充たされています。

神がどのようなお方であること、また自分たちがどのような者であること、またこの地球上に自分たちが住んでいるわけ、またイエス・キリストがどのようなお方であるかということが解つて居りますから、末日聖徒はこの地球上に生きてゐる特権を有難いと思つてゐるだけでなく、またこの特別な時代にこの地球上に生きてゐることを感謝して居ります。この原子爆弾と大陸間弾道弾の時代に無数の人々は恐怖と不安にとらわれていますが、末日聖徒の心は信仰と平安に充ちて居ります。それは末日聖徒が善は必ず勝つことを知つてゐるからであります。全く世界の悪人たちがどんなことをしようとも善は悪にうち勝つにちがいありません。

この感謝を捧げる時に当り、私は全世界に於けるモルモン教会の会員たちと共に、地球上に住む大きな特権と、この特別な時代に地球上に住むことを許されているその上の特権とを喜ぶものであります。私たちがすべてが回復された福音の教えを一生涯変ることなく確く固く守ることによつて、私たちの感謝の気持ちをいつも実際に表わしますように祈る次第であります。

「イスラエルの散乱と集合」(六)

佐藤龍猪

エホバ汝らを国々に散らしたもうべし (申命記四〇二十七)

汝たとい天涯に追いやらるるとも汝の神エホバこそより汝を集めそ

こより汝を携えかえりたまわん。

(申命記卅〇四)

一、イスラエルの散乱

イスラエルという言葉は(一)アブラハムの子であるイサクの子、ヤコブの異名(二)アブラハム、イサク、ヤコブの子孫(三)ヤコブの子孫に属する十二支族全体を表わす名称、イスラエル人(四)ユダヤ人(五)神の選民(六)キリスト教徒などの意味をもっている。イスラエルがアブラハムの子であるイサクの子、ヤコブの異名になった次第は創世記第三十二章二十四―二十八節に出ている。また創世記第三十五章十節にも「神かれに言いたまわく汝の名をヤコブと言う。汝の名は重ねてヤコブと言うべからずイスラエルを汝

の名とすべし」とある。このようにしてヤコブはイスラエルと名のるようになったが、イスラエルという名はヤコブ一人の名にとどまらずして彼の子孫に属する十二支族全体を表わすようになって彼らはエジプトに居る間(出エジプト記一〇一、九〇六、十二〇三)、カナンの地へ行く四十年の旅をしている間(出エジプト記十二〇三十五、十三〇十九、十五〇一、三十五〇廿、レビ記一〇二)および士師さばりつかさの支配下にあった時代に於て、またサウル、ダビデ、ソロモンの各王朝に亘って「イスラエル」「イスラエルの子孫」などと呼ばれた(士師記、

サムエル前、後書参照)。

ソロモン王はイスラエル(ヤコブ)の十二人の息子を最初の族長とする十二の族から成る王国を支配していたが紀元前九百七十五年王が死ぬとその王国は二つに分裂した(南と北の王朝)(列王紀略上第十一―十二章、歴代志略下第九―十章)。南はソロモンの世嗣レハバムを王に戴いたユダ族とベンジャミン族の一部から成るユダ王国であり、北はレハバムに叛いてヤラベアムを王に戴いた他の十支族から成るイスラエル王国であった。この十支族の中でエフライムが最も強大であったから彼らの全体はまたエフライムとも呼ばれる。紀元前七百二十一年になって、イスラエル王国(エフライム)はアッスリヤの王シャルマネゼルに亡ぼされイスラエル人(エフライム)はとりこになってアッスリヤに連れて行かれたが、この十支族はそれより歴史の上からその姿を消した「エフライムはもろもろの民の中に入り混じる」(ホセア七〇八)(列王紀略下第十八章)(失われた十支族)。その後百年余りたつて、ユダヤの王ゼデキヤのときバビロンの王ネブカデネザルが攻め上つてきてユダヤの王国を亡ぼし(紀元前五百八十八年)その民はバビロンに連れて行かれた

(列王紀略下第二十五章)、(バビロンのとられ)。七十年のとられの後(エレミヤ記二十五〇十一・十二)ベルシャ王クロスがバビロンを支配するに及んで許されて故国へ帰った者もあつた。しかし、紀元七十一年ユダヤ人がローマに対して謀叛をしたためにヴェスパシヤン帝の子タイタスはエルサレムを囲んでこれを陥し入れ、ユダヤ王国は完全に滅亡してユダヤ人は全世界に流浪する民となつた「ユダはみなとらえ移され、ことごとくとらえ移さる」(エレミヤ記三三〇十九)、(マタイ伝二十四〇一―四、ルカ伝十九〇四十四)。

イスラエルの散乱はすでに昔から予言されていたところであつて、モーセ(申命記四〇二十七―三十一)イザヤ(十一〇十二)エレミヤ(十六〇十三)エゼキエル(十一〇十六)アモス(九〇九)ゼカリヤ(十〇九)等にこのことが見えている。

二、イスラエルの集合

「われすなちち命を下しふるいにて物をふるうがごとくイスラエルの家を万国の中にてふるわん」というアモスの予言(アモス九〇九)は事実となつて現われた。しか

しそのあとについている「一粒も地に落ちざるべし」という約束の言葉を見落すことはできない。イスラエルの散乱が予言されていると同時にイスラエルの集合もまた昔から予言されている。すなわちモーセ(申命記三十〇三・四)イザヤ(五〇二十六)エレミヤ(十二〇十五、十六〇十五)、エゼキエル(十一〇十七)、アモス(九〇十四・十五)、ホゼア(一〇十一)、ネヘミヤ(一〇九)ミカ(四〇一―七)等にそのことが見えている。

(1)イスラエル集合の鍵(権能)

主がイスラエルの祖アブラハムに与えたもうた約束の地へイスラエルを導いて行くために、モーセを召してエジプトへ遣わしたもうたとき、モーセはシナイの地(ホレブの山)でこの鍵を受けた(出エジプト記三〇一―十二)。後に至つてペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人は「変貌の山」(マタイ伝十七〇一―十三)に於てその時代に於けるイスラエル集合の鍵をモーセから授かつた。次に千八百三十六年四月三日、モーセはオハイオ州カートランドの神殿に現われ「この時満ちたる神権の時代」に於けるイスラエル集合の鍵(権能)をジョセフ・ス

ミスとオリヴァ・カウドリに授けたのである。「この示現閉ぢらるるや、天再びわれらの前に開けてモーセわれらの前に現われ、世界の四極よりするイスラエル人の集合と北の国より十の支族を導き來ることの鍵をわれらに委せり」(教義と聖約第百十章十一節)。そもそもイスラエルの集合には三つの事項が含まれていて、それはすなわち(一)十支族が元に戻ること(二)イスラエルが全世界の国々からシオンに集ること(三)ユダヤ人がエルサレムへ復歸することである。この三つのうち(一)と(二)とは共に関聯があつて現在行われている当教会の大きな働きを指すものであり、この働きを為すべき鍵(権能)は先の啓示に由つて神から直接この鍵(権能)を受けた人、モーセから当教会に授けられたことが明らかである(信証講義第十八〇十九・廿)。

主は啓示(教義と聖約百三三〇八・九、十二―十四)の中で命を下して次のように仰せになつてゐる。「わが教会の長老たちを遙かに離れたる諸々の国民に遣わし、また海の島々に至らしめ、また外国に遣わして万国の民を訪わしめ、まず異邦人を訪ひ次にユダヤ人に至らしめよ。見よ、みよ、長老たちの叫びと、ことごとくの民に向いて主の告ぐる声

はこれなり。汝らシオンに出で行き、以てわが民の境を拡げ、シオンのステーキ部を強うしてシオンを周りの地方に及ぼすべし。……この故に異邦人の中にある者たちはシオンに逃れよ。ユダのすえはエルサレムへすなわち主の家の山へ逃れよ。汝ら諸々の国民の中よりすなわちバビロンより、靈のバビロンなる悪の中より去るべし」と。これはすなわち世界の四極から末日の聖徒を集める事業の目的を示しており、末日の聖徒は信仰によって主の義しい怒りの日に平安がシオンに於て見出されることを知っている故にこの集合の事業を非常に重大視しているのである（信証講義第十八〇二十一、二十二、二十三）。

(ii) エフライムの使命

ヤコブの息子ヨセフは主なる神の御旨に對して忠実であつたからイスラエルの家督相続権を授けられた。長男には特別の権利と祝福が授けられる習わしであつたが、ヤコブの長男ルーベンが罪を犯したから（創世記四十九〇三、四）家督権を失いヨセフに与えた祝福は創世記四十九〇二十二―二十六に出ている。ヤコブがヨセフの子であるマナセとエフライムに祝福を与えた

ときに、ヤコブは長子のマナセをさし置いてエフライムにイスラエルの家督権を与えた（創世記四十八〇十三―二十）。先に述べたようにソロモン王の死後イスラエル王国はイスラエル（北）とユダ（南）の二つの王国に分裂した。その中イスラエルの主力となつていたものはエフライムであつたから、イスラエルの散乱によって万国の民の中に最も多く散らされたものはエフライムの族である。

エフライムは啓示によってイスラエルの家督権を有つ祝福を与えられたのであるから、今日指導的地位に立つてその権能を行使することは適切なことである。従つてイスラエルの他の種族のために道を備えるためにエフライムは第一に集合しなくてはならない。今日福音を信じて当教会に入つてきている人々の大部分はエフライムの族に属している。エフライムでない場合はマナセであるが、そうでない場合は異例である（祝福師の祝福の言による）。

エレミヤ記第三十一章六―九節に出ている予言の言葉はエフライムの使命に就いて大切なことが言つてある。その始めの言葉に曰く「エフライムの山の上を守る者の立

ちて呼ばわる日來らん。いわく汝ら立てよ、われらシオンに上りてわれらの神エホバにもうでんと」。また教義と聖約第三百三十三章三十二―三十四節には「北の国々の者はひざまずきて、シオンに於てエフライムの子孫なる主の僕らの手により榮の冠を受け、彼らは永遠の悦びの歌をもて満たされん。見よ、これはイスラエルの支族の上に給う永遠なる神の祝福にして、またエフライムとそのともがらの頭の上に給う更に豊なる祝福なり」とある。

すなわちイスラエルの遺りの者が集つてくる時にエフライムの子孫は「主の僕」となり祝福と共に与えられた家督の権能をもつて首位に立ち、その手から他の種族の者たちに至上の祝福を与えるのである。

今日エフライムは神権を保有している。また主はエフライムと聖約をしたまひ永遠なる完全の福音を啓示したもうた。エフライムは神殿を建てて生ける者と死ねる者とのためにバプテスマを執り行つている。「失われた十支族」がイザヤ、エレミヤ等の予言者を通して与えられた約束を成就するために集合するときに、彼らはイスラエルの家督権をもつてエフライムから至上の祝福を受けるのである。（ジョセフ・フィードリング・スミス長老著

「救いの教義」第三卷二五〇—二五三頁および「完成への道」第十九章参照。

三、二つの集落地

末日聖徒は啓示によってシオンはアメリカ大陸を指すことを理解している。シオンとエルサレムとは全く別々の地であつて、主はこの中の一つをユダとそのともがらの王国の首都としたまい、今一つをヨセフとそのともがらの地であるシオンに於ける主の王国の首都となしたもう。ユダの民は集合する。そしてその集合の地はエルサレムとバレスチナであつて、現在彼らは集合しつつある。また、イスラエルの族はシオンの地へ集合し、その首都はすなわち新エルサレムである。(「ジョセフ・フィードリング・スミス長老「完成への道」百三十九頁)。

参考

申命記(四〇二七—三十一、三三〇—四) イザヤ(二〇一—五、五〇二六—三〇、一一〇—十一、一二、一四〇—一二、一八〇—一三、二九九〇—一三〇、三三五〇—四一、四三三〇—五、五、五十四〇—一、一七六、一〇四) エレミヤ(三〇二—二十八、

十二〇—十四—十七、十六〇—十一—二十一、二十三〇—二一八、三三〇—三、三三十一—〇六一、十四、三三二〇—三三七—四十、三三三〇—七—十四、五〇〇—四—八)、エゼキエル(十一〇—十六—二十一、二十〇—三三—三十四、二十八〇—二五—二六、三十四〇—三十一—三十七—〇五—二十八) アモス(九〇—九・十四・十五) ゼカリヤ(十〇九) ホセア(一〇十・十一、十四〇—一九) ネヘミヤ(一〇八・九) ミカ(四〇—一七) ゼパニヤ(三〇—十四—二十) 詩篇(十四〇—七、百七〇—一七) 歴代史略下第九—十章、列王紀略上第十一—十二章、同下第十八章、教義と聖約百十〇—十一、第百三十三章。

余 録

モルモン経アルマ書第十章三節には「リーハイはマナセの裔、マナセはヨセフの子であつて、ヨセフは兄弟のためにエジプトに売られた」と誌してある。これによってリーハイの子であるニーフアイはマナセの血統に属することが明らかである。しかしニーフアイと一しよに荒野へ旅をしてリーハイの一行に加わつたインメル(ニーフアイ第一書第七章五節)は誰の裔であつたか。「使徒エラスタス・スノー講話」の中には

次のような記事がのっている。

「しかし、インメルの血統はエフライムの血統であつて、インメルの息子らはリーハイの家族と縁組し、リーハイの息子らはインメルの娘たちを娶り、かようにして創世記第四十八章十六節にあるエフライムとマナセに与えたヤコブの言葉は成就された。すなわち『わがわくはこれらの者、わが名とわが父アブラハム、イサクの名をもとなえられんことを。ねがわくはこれら地の中にふえひろがるに至れ』と。このようにして、これらマナセとエフライムの子孫はミュレクの子孫であるユダの家から出た少数の者(オムナイ書十五)とこのアメリカ大陸で共に大きくなつた。ミュレクはリーハイの後十一年たつてエルサレムを出て、後にモーサヤが発見してゼラヘムラと呼んだ植民地をきずいた(モーサヤ書二十五〇—二四、アルマ書二十二〇—三十一—三十二、ヒラマン書六〇—十、八〇—二十一、オムナイ書三十三—十五)。このようにしてユダの残りの者と、われわれの知るかぎりではミュレクに伴つて来たと思える他の支族と共に、エフライムとマナセとの混合すなわち結合ができあがつた。そしてこのような民族がアメリカ大陸で発達してきたのである」(千八百八十二年ユタ州ローガンにて「使徒エラスタス・スノー講話」、講演雑誌第二十三卷百八十四—百八十五頁所載)

極東に於けるモルモン

私の改宗



福田 真

(東中央地方部日曜学校指導者)

一九五一年の十月中旬、私は始めて仙台市の市町村会館で開かれていた末日聖徒イエス・キリスト教会の日曜学校に出席した。幼い頃に父や姉が亡くなり何かしら幼い頃から宗教心が養われていた私は高等学校に入ってからどこか教会へ行きたいと思っていた。そんな時に当時上京していた兄が教会へ行つていたので思い出して手紙を書いた。その返事によって前記の場所に集会が開かれているのを知ったのである。始めての訪問の日ホールに一人の兄弟が坐って居り心よい握手をした事を憶えている。次の週から私は近所

の子達を誘って日曜学校に行く様になった。

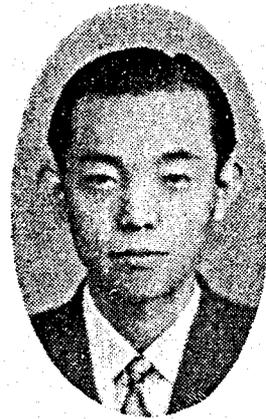
それからほとんど欠席する事なく日曜日ごとに教会に行く様になった。その頃日曜学校の求道者の級では宣教師から「信証講義」を勉強していた。教会に行き出してから間もなく集会所が変り洋裁学校へ移った。その新しい場所では始めて求道者の同じ仙台一高生と二分半の話を割り当てられ「汝の隣人を愛せよ」というキリストの言葉をテーマにして話した事を思い出す。この洋裁学校に来てから「金と緑の舞踏会」が開かれ、その時誘われて始めてMIAに出席した。その後二三度MIAに出席する様になった時MIAの書記をして一人の姉妹が都合で止めたいので私に書記になってくれとの事だった。私はこの機会

を心から喜んでお引受けした。こんな風にしてMIAにも毎週出席する様になった。私に与えられたこのMIAの書記という責任は単に教会を知るといっただけでなく真に私の証詞と信仰を強めてくれたもつとも素晴らしい機会であった事を深く感謝せずにはおられない。この責任を与えられて以来今日に到るまで、天父のお与え下さった数々の責任やお召しは、私にこの人生に於いてもつとも意義あり価値ある生活は神と隣人に対する奉仕である事を教えた。更に天父なる神と御子イエス・キリストによって進められている人類の救いの計画を成就する様に協力する時、たとえそこにどんな犠牲が払われたとしてもこの世のいかなる事よりも楽しく心の中に真実の満足と喜びを得られる事を知った。宣教師による家庭集會も近所の子たちと一しょに開かれたがこれは二・三回でとぎれてしまった。翌年(一九五二年)の春四月頃だったと思うが私と同じ頃教会に来た学生がバプテスマを受けた。私もその時バプテスマを受け様と思ひ兄に手紙を出すと重要な儀式であるから本当に強い決心を持っていなければ受けるべきではないと返事を受けた。私は自分自身を反省してまだバプテスマを受けるべく準備

はされていないと思ってもっと努力しよう
と決心した。五月の好い気候の時仙台で山形支
部と合同で大会が開かれた。私はこの大会の
証詞会で今までにないほど強く聖霊の導きを
感じた。この様にして私の心の中には幾多の
機会を通して何時しか否定し難い事実として
真の神の教えが受け入れられ確かな証詞が
作られていった。合同大会より二ヶ月後私は
バプテスマについて独り静に考え、その時が
来た事を感じ母に許しを願ったのだ。一
九五二年八月一日、前日は大嵐であつたが、
その日はカラリと晴れ仙台市の広瀬川の上流
で当時女学生だった双子の姉妹と共にノー
ン長老よりバプテスマを受けた。その月の第
一の安息日、開かれた証詞会で私は天父なる
神と御子イエスキリストに対する心からなる
証詞を述べた。この証詞こそ私の過去七年に
亘る信仰生活の上にあつて絶えず希望を与え
慰め励ましを与えてくれたものだった。「人
間は独り立たず」と言つた偉大な自然科学者
の言葉の如く「天父なる神と贖い主イエス・キ
リストが親しくジョセフ・スミスの前にその
御姿を現わされ、人類は全て生ける神の息
子、娘であると示された」この事実こそ私の
心の中にあつて苦難の時に、試みの時に光の

道を歩む様に勇氣と導きを与えてくれたもの
である事を真実に証詞致します。
(福田兄弟は一九五九年十月四日、東中央

私の体験



片山 富夫
(岡崎支部第二副支部長)

地方部大会に於て日曜学校指導者に支持され
たが、実際には八月より任命され支部を巡回
し、日曜学校の指導に當つてゐる。

片山 富夫

あのいまわしい戦争は多くの人々に悲惨な
状態と不幸を与えました。私も終戦直前の
一九四五年六月五日、神戸市に於て戦災にあ
い家は全焼し、勤めていた川崎重工の事務
所も焼失し、その上家族とも離れぬになつ
てしまいました。私は怒りと憎しみの暗い気
持ちを抱いて、その後約二年の間希望のない
道を歩み、転居も数度に及びましたが、やっ
と叔父の世話で京都へ移りました。幸にも現
在勤めている会社に就職することが出来まし
た。入社後も、私は荒んだ自分の気持ちを和
らげるため、希望のある精神的な何物かを求
めたい気持ちで一杯でした。三年目の一九五

〇年三月当地の有名新聞に、当教会の宣教師
の記事がのせられているのを見ました。私は
思ひきつて集会の開かれている学校へ出向き
ましたが、思いがけなく宣教師たちの熱心さ
と、親切な態度にすっかり感激致しました。
ちょうど京都に支部が開かれて間もなくのこ
とでした。当時の宣教師は、二世の吉井長老
とフアーガスン長老でしたが、自分たちの費
用で伝道されていることを聞き、強く心を打
たれました。私はその後あつかましくも、は
とんど毎日のように宣教師の宅へ出向き、福
音について伺いました。殊にジョセフ・シミ
スとモルモン経典についての話を伺つた時に
は、疑うことなく真実であると心から信ずる
ことが出来ました。やがて素晴らしい機会が与
えられました。六月十一日、西宮市甲陽園の

上流で、バプテスマを受け、神の御国の門の内に入る事が出来ました。私は神様と誓約を結び得たという大きな事實は、他の如何なる約束よりも遙かに素晴らしく、尊く、且つ聖いものであると堅く心に誓いました。以来京都支部の一会員として、支部に伝道された多くの宣教師達の強い証詞にはげまされ、私の弱い信仰に鞭うつよき糧となりました。然し京都は仏教の都として、古くからの封建的な思想が根強く、又支部会員達の間にも、サタンの強い誘惑に打負けるものが出来、支部の発展は仲々進みませんでした。遂に、支部が開かれてから七年目の一九五七年九月に、伝道部長から、京都支部が閉じられることを承りました。私にとっては大きな試練が与えられました。その後の集会の出席は地方部長から大阪の岡町支部へ出席するようにすゝめられました。岡町支部へ出席するようにすゝめられましたが、続けて大阪へ出席出来るかどうか不安でした。それは経済的にも時間的にもかなり困難を伴うことでしたが、神様との誓約を守るためには、何をおいても出席するべきだと決心し、神様の導きをお祈り致しました。ちょうど新しく神戸市の三ノ宮に支部が開かれることになりましたので、私は想い出深い神戸へ是非共出席したく、当時の地方部

長フーバー長老にお願いし、十月初めより三ノ宮支部の集会に出席致しました。約半年の間、日曜学校に出席することが出来ましたが翌年四月支部長のすゝめにより、近い岡町支部の方へ出席することに致しました。三ノ宮支部に於ての素晴らしい出来事は、半年の間に約二十名近い会員が生れ、二人の兄弟たちに神権が与えられたことでした。又京都支部当時求道者として、出席していた私の妻が、バプテスマの儀式を受ける事が出来、教会の一員になり得た事は、大きい喜びでした。現在岡町支部に於て、支部の心強い発展を希いながら、私の歩んできた道を反省してみますと、日々の生活の中にあつて、常に神様に感謝し祈りを捧げることこそ心を謙遜にさせるものであり、どのような困難な場合が、生じようとも努力して教会の集りに出席し、聖餐の戒めを守り、主の「みたま」の導きを受けなければサタンの強い誘惑に打勝つことは出来ないことを信じています。予言者、十二使徒が選ばれ神権を与えられている末日聖徒イエス・キリスト教会こそ現在地球上に於て唯一つ、最も安心して身も心も任せ得る最良の場所であることを確信致します。

札幌支部から

——慰問とピアノ独奏会——

北の国札幌もすっかり秋らしくなり、朝夕肌寒さを感じるようになりました。でも私たちが札幌支部会員及び求道者はそれに負けない暖かい心を燃やし続けています。

八月の終り近い日、私たちは琴似にある整肢学院を訪問しましたが、その時の模様は、次の手紙によってわかっていただけたと思います。

「昨日は真心のこもった慰問をいただき心から感謝しています。教会や日曜学校からの慰問と申せばお説教や讚美歌ばかりで終るのが常でございますのに、生徒と一緒に歌ったり遊んだりして下さった為、一層親しみやすく、午後のひと時を過ごさせていただきました。——中略——皆様方がお帰りになった後もしばし話題がはずんでおりました。——後略——」学院の生徒たちからもこの様な手紙が沢山来ました。皆私たちと心から楽しく接する事が出来た事を感謝していました。また中には報道関係者が同伴してないので視しみを感じたといってくれた人もいました。

私たちも人に明るい心を持たせることが出来たことを心から感謝しています。

また、九月初め秋元彬江姉妹のピアノ独奏会を開催致しました。前々からの希望がやっとかなえられ、各新聞の批評も彼女をほめた、え好評のもとに開かれましたことをお知らせ致します。

(小城理子)

ウエスターガードの系図

J・C・ウエスターガード



コペンハーゲンの教会堂・伝道本部も後部にある

系図に関心のある末日聖徒にとって、エラの中に出て来る定期的な記事は、最も興味深く益あるものであると思う。通常その前文に福音を受入れるように導くような個人的な伝記を載せている。

私の場合も例外ではない。私は子供の時にデンマークで多くの思慮ある人たちが非難するモルモン教を聞いたのであった。私は二ヶ年間の軍務（竜騎兵として馬術専門家の一人であった。）の後二十才で私はデンマークで、第二番目の人である有名なエストラップ総理大臣の駁者となった。彼の馬の血統は北欧で最も秀れたものであって騎兵たちに特に愛されていたがその内に、「ニールス・ミケルスン・トラップ」と言う名の立派な人が居た。彼は私が最初に逢った末日聖徒であった。彼はその後ユタ州のフアンティン・グリーン

に移殖した。其後私共は母国デンマークに同僚宣教師となって共に働らいたのであった。

私は軍隊に入る前に農業を学んだ。エストラップ大臣の仕事の止めてから私はデンマークで最も古く最大なる酪農場、「クラウスホルム・ジャットランド」の監督人となった。其処で血統書を有している三百の牛が非常に大切にされていた。酪農部長は大家族を持つた顕著なモルモン教徒であった。彼は後に家族と共に移民した。彼の子孫は現在、カナダ及び西部諸州に多く居る。私が親しくなつた、この二人の末日聖徒たちに対する印象は、私の彼等の宗教に対する考えを好意的にする迄に至つた。然しほんとうの熱意は私の将来の基であつたベトリンに逢つた時にもたらされた。実際に於て彼女が持っている福音は、彼女の有利な資産であると私は見積つた。私が彼女及び彼女の宗教を克ち得た時、私は最上の投資をなし、七人の子供の配当を得たのである。一九五〇年に彼女が死ぬ迄、六十五年の間我々は夫婦共隊ぎで共に暮らしたのであった。

クラウスホルムに居た四ヶ年の間、有名なクラウスホルム・ホレストイン牛の血統書を保持することが私の責任の一部であつた。

その繁殖に細心の注意が払われた。赤色のはその繁殖を防止する為、(単に酪農場からのみならず全近郊から) 禁止された。(創世記三十一〇三七―四三の如し)

これ等の牛の繁殖に厳格な注意が払われているにもかかわらず、時たま赤いのが生れる。これはその潜伏期が如何に長く留って出て来るものであるかを示している、これは教会の多くの秀れた教義に生活する私たちの場合も同様に、死者の救い、永遠の結婚及び結び固めの儀式は、その美しさ又その知恵に於て、すべての限りある普通の理解を超越しているのである。

これ等の神殿の祝福を受けるようになる以前に家族の記録と系図(即ち身分証明)が或程度確保されねばならない。

「世人はいかなるものなればこれを聖念にとめたもうや」

私は牛の血統を学んだが人の系図は更にどれ程大切であろうか。私は系図学に於て血統書は系図と見做さるべきであると思つてゐる。深い関心を以て私は教義と聖約第七十六章及び第一三二章を読んだ。一九〇二年から一九〇五年迄、デンマークに伝道した間に、デンマークの古い原稿に精通した私は、三百

年間に亘る自身の系図を探し出した。私は或末日聖徒たちが持つてゐるように、大冊子の印刷された系図を持つてゐない。けれども私は私の思いと時間と働らきを此の私の信仰の本質に熱烈に捧げたのであった。

私の系図を私は深い関心と、愛と犠牲と、又最善の努力を以て私の親戚に関して集めた貴重な資料を以て始めた。保管者がこれを大切に取扱つて安全に保つように望む。私は今九八才である。モルモンの言によれば私は私の記録を終えたのである。そして私はその記録が真実であることを知つてゐる。私は自身の手でそれを作成した。

復活の朝に私は私の地上の父と握手出来、父は「我が息子よ、我が息子よ」と呼び私は「お父さん」と叫ぶであろうことを知ることは何と嬉しいことであろうか、予言者、ジョセフは私たちが愛する先祖たちと逢つた時、そして地上に於ける私たちの努力の結果、先祖たちに永遠の祝福の喜びをもたらすことが出来たのを知つた時のお互の嬉しさを如何に美しくその心に描いたことであろうか、若しも私たちが私たちの義務を無視したらこの美しい絵は逆になる。そして喜びの代りに私たちは自責の念にかられ不幸に陥るであろう。

末日聖徒として私たちは常に私たちの死せる親類に対する責任を遂行すべきである。

× × × × ×



あをさき噴水、背後の建物はデンマークの政府

準備

十二使徒会補助

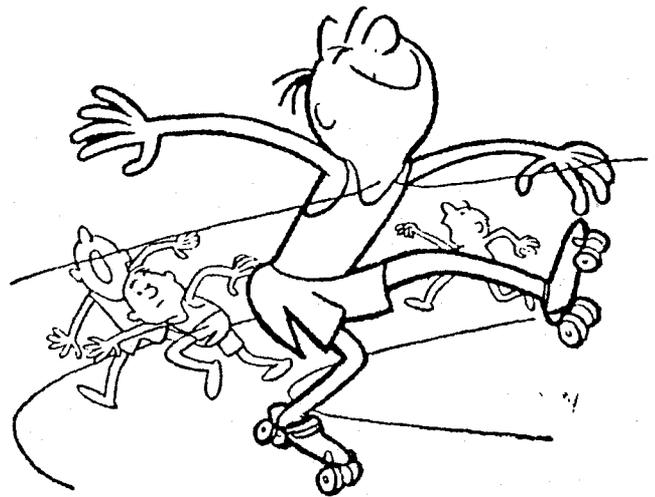
スターリング・W・シル

使用される言語の中で最も美しく、素晴らしい、有益で、且つ効果的な単語の一つは「準備」という単語であろう。準備するという習慣によってより多くの成功が得られ、幸福が得られ、またより良き事が成就され、更にまた多くの人たちが救われている。最も勤勉な働き手、最も有用な市民、また最も良き教会の指導者は常に完全な準備を怠らぬ人たちである。人生のすべては「準備」より成り立っている」と云つても過言ではあるまい。われわれがどのような準備をしているかによってすべての成功が関係してくる。われわれは学校に入るための準備をしたり、結婚や生活に必要な仕事のためにも準備をする。また生に對しても、死に對しても準備をする。しばしばある人はこんな事を言う。「未来はそれに対して準備を怠らぬ人のものだ」と。この言葉は未来という事に対して適用されるばかりでなく、現代にもあてはまるし、日の榮光に於て永遠に救われるという事にも関係づけられる。

今日の生活に於て最も大きな悲劇を代表する言葉は、恐らく「準備が出来ていない」という事だろう。「準備が出来ていない」という言葉が悲劇であるという理由は、そこに失

敗が避けられないという意味が含まれているからである。燈火に油を切らして当惑し、失望している愚かな五人の処女について考えてみよう。彼女たちの愚かさは、彼女たち自身の怠慢によるものであった。日々われわれは何ら準備もせず、また訓練も受けない多くの青年たちの悲劇を目にしている。

近頃私は百名ばかりの指導者たちが招待された大切な教会の集會に列席した。しかし、この集會に對して直接責任を持つ人たちが遅刻して来た。集會の開かれる部屋は全く乱雑で、前もって何ら整理も、準備もなされていなかった事を示していた。椅子もでたらめに並んでいた。部屋の中の空気は汚れ、花も飾られず、讚美歌の本も準備されていなかった。集會それ自体もよく計画されておらず、故にその集會の目的も失われ勝ちであった。準備が怠慢であるという事は多くの点で重要な原因となる。普通これは失敗の原因になるが、更に重要な事は、それが人の態度や感情の変化の原因となるという事である。すなわち、準備を怠ると、それによって人は無神経な態度となまけぐせを持つようになり、責任を与えられてもよるこんで遂行しなくなる。ソロモンは云つた。「黙示なければ、民は



準備（練習）は勝利をもたらす

ほしいまゝにす」と。これは誠に真実である。われ／＼が目の前にある小さな物事を見る事が出来ないなら、はるか未来に横わっている大きな物をどうして見る事が出来るであろうか。

イエスが復活後アメリカ大陸に現われたもうた時、人々はイエスを受け入れる準備が出来ていなかった。長年の間、予言者たちは主が世を贖うために来りたもうと彼らに予告していた。この出来事は最も大いなる出来事の一

つで世界歴史中、唯一度のみ起る出来事であった。しかしイエスが来りたもうた時、人々は全く備えが出来ていなかった。また、イエスの言葉さえ学ぶ準備が出来ていなかった。イエスは彼らに言われた。「汝らは理解力弱く、御父が今汝らに説き伝えよとわれに命じたまひし教えが、ことごとく汝らに了解されざる事明らかなり。されば、汝らは各々その住居に帰りて後、われがこれまで汝らに語りしことをよくよく考えて、汝らの理解できるために、また明日教えを聞く準備をするために、わが名によりて御父に祈るべし。われは明日再び汝らのところに来らん」。(ニコーファイ第三書十七章二節三節)

彼らにとってイエスが御自分の生命を犠牲にされたということだけでは充分ではなかった。イエスは彼らにその音信を聞く準備が出来るまで待たねければならなかった。ノアの時代の人々も準備が出来ていなかった。エルサレムでも、またこのアメリカ大陸でも人々は準備が出来ていなかった。そして、今日のわれ／＼でも、主が天の雲に乗って栄光の中に降りたもう時に対してまだ準備が出来ていないであろう。

準備はわれ／＼の生活の中で最も大切な一

部分である。またこれは主の最も卓越せる教えである。イエス御自身ですら、この地上に三十三年間生きておられたが、その三十年間は準備期間として過ぎたのであった。数えてみれば、正に九十八パーセントは準備の間であった。聖典は次のような勧告でみちみちている。「汝、主の道を備えよ」。今日の生活に最も大切な事は、適切な準備という事である。

辞書の中に「準備」とは「計画に従って秩序正しい備えをする」と書かれてある。これはわれ／＼の思想や生活にあてはめて考える事が出来るであろう。われ／＼は日常生活のあらゆる事に於て準備が必要である。われ／＼の全生活は神の定めたもうた計画に従っている。この世に生を受けた人、またこれから生を受けるであろう人たちの大部分は裁きの時に日の栄光に入るための準備が出来ていない状態で神の前に立つてであろう。

われ／＼の生活に於て日々の能力を伸ばすばかりでなく、物事を前もってよく計画、準備する習慣を身につけるなら、何とすばらしい進歩を得る事が出来るであろうか。

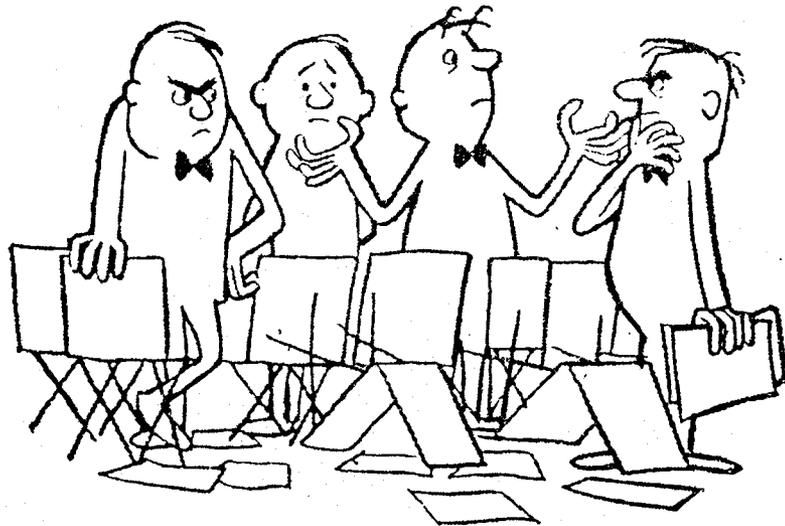
ナポレオンは「神は常に大軍にくみす」と云った。ナポレオンは前もってよく訓練され

組織された軍隊は恐るべきものである事をよく知っていた。誠に主はよく準備をし、勇敢で、勤勉で、且つ忠実な者たちの味方である。このような人たちは決断力を持ち、はっきりとした見解を懐いている。主は物質的、知的、情緒的、精神的に準備をした者の味方である。誠に人生の賞は準備の出来ている人に与えられる。

世界ゴルフチャンピオンの一人であるウォーラーター・ヘイゲンはかつてその成功の秘訣を問ひ尋ねられた。彼ははじめ、試合で相手を負かすためには、まず練習の時に相手になる人が練習する以上にはげしい練習をしなければならぬ事がわかったと云った。彼が何回も選手権を得たのは、長時間に亘る訓練と練習の賜物であった。彼は完全になるまで棒をふった。そして試合の時までには完全な準備が出来ていたのであった。

もう一人のチャンピオンがかつて次のように言った。「自分の成功の鍵は先天的な能力以上に、練習の賜物がそれである」と。われわれは能力の増大という事を考えるが、このために準備が必要なのである。誠に準備は最も素晴らしい機会であるが、われわれはどれ位この準備という機会の利点に与っているであ

ろうか。どれ位の人たちが人生の業のためによるこんで準備しようとしているであろうか。彼らは少し教育を受けただけで、またほんの少々書物を読んだだけで、事業を行うた

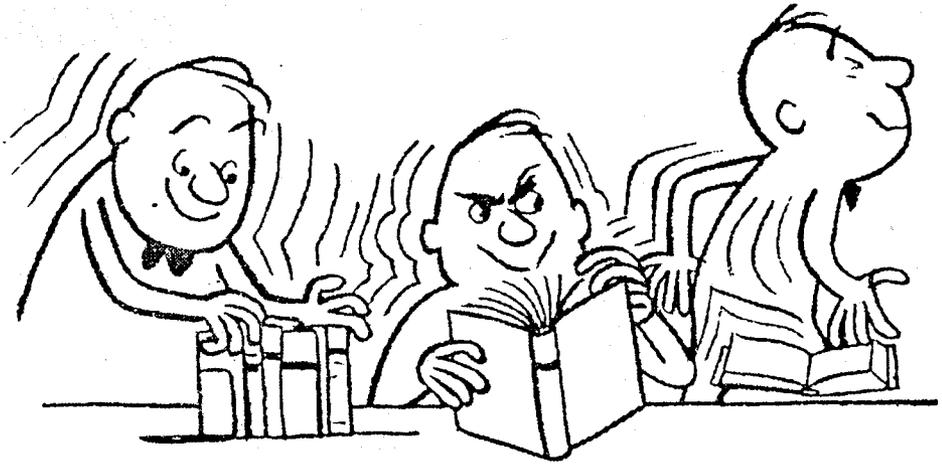


準備がない、どうしようか

めの準備が出来ていると考えている。この事は、特に神の御業にたずさわる人たちについても云える。しかし、大がいの場合、われわれは完全な準備が出来ていないのである。

われわれの個人的な準備は、すべての成功の鍵であり、幸福への鍵であり、われわれの能力を増大させるための方法であり、神を喜ばせるための手段である。効果的な準備によってのみ、神の与えたもうた才能を完全に活用する事が出来る。若しわれわれに何か欠けているとすれば、それは能力、才能ではなく、完全な準備が欠けているのである。

成功したいと望みながら、準備していない人は、失敗のために準備しているようなもので、若しより良くなりたいという気持をすてしまえば、必ずそれと全く逆の悪の道に落ちて行ってしまうであろう。ある人がフラガット海軍大将に「敗北の備えは出来ているか」と尋ねると、大将は「勿論出来ていないよ、わしには勝利の備えは出来ているがね」と答えた。勝利のための準備をしていない者は、必然的に敗北の準備をしている。勝利は計画によってもたらされるが、敗北は怠慢によってもたらされる。主は教会で奉仕するようお求めになっているが「見よ、召さるる者は多けれども選ばれる者は少し。選ばれることなきは、これをもそも何の故ぞ」とも仰せになった。主の御業以外の事柄のみに執着している者は、準備の出来ていない者である。



大がいの人は書物を少々読んで
準備が出来ていると思つている

若し今準備が出来ていないなら、何故準備をしないのだろうか。準備をするための時間はあまり残されていない。準備は今なされなければならぬ。エブラハム・リンカーンは

云った。「私は今準備をして、機会が到来した時にそれをつかむ」と。リンカーンは幼少の頃から自分の人格の育成につとめていた。今日主が下りたもうと仮定してみよ。われ／＼の燈火にはどれ位の油が入っているだろうか。われ／＼はだれでも何事かのために準備をしている。この準備は成功だろうか、失敗だろうか。福音の原則は日の栄光に入るための準備をさせるためにわれ／＼に与えられた。如何なる原則も、より低い栄光に入る準備をさせるために与えられはしなかつた。われわれは自らの怠慢と怠惰によってより低い栄光に入る者はより高い栄光に入るための準備が出来ていない人である。すべての成功は計画によって来り、失敗は怠惰によって来る。

神の多くの子供たちが、より高い所に行くための準備が出来ていないという理由だけで行くという意志も願望も無いより低い所に追いやられるという事は悲しむべき事である。靈的な成功はわれ／＼の頭脳、または環境に依存するのではなく、むしろわれ／＼が準備しているか否かにかかっている。

人生の成功は重要な事であるから、軽々しく考へてはならない。われ／＼はみな成功を

しっかりと勝ちとらねばならない。来るべき時のために、前途を見つめ、つとめて準備をなす必要がある。こゝで準備という事を次の種類に分類して考察してみよう。

一、物質的な準備

教会の集会に於て、もっとどれ位準備が必要であるかを考へてみよう。周囲の環境、集会場所はもっと清潔にきれいに出来るのではないか。椅子や歌の本ももっときちんと並べられる筈ではないか。花などを飾れば、もっと集まる人たちの気持を高めるのではないか。主の宮は秩序の家であるが、主の家のみならず、われ／＼自身の生活も秩序正しくあるべきである。秩序正しくあるために出来る限り努力すべきである。

二、知的な準備

人生に於けるよろこびは、われ／＼自身の考へ方からしば／＼生れて来る。

私は準備に八時間を費さなければ、決して日曜学校で教えない一人の教師を知っている。このような教師の生徒になる事は何と素晴らしい事であろうか。教師や演説家が考へ、計画し、祈る時に、その考へは新しい美と重要性とを得る。イエスはアメリカ大陸で、民に「家に帰って準備せよ」と言われた。彼ら

は理解する準備が出来ていなかったし、また
教えたり、説きあかしたりする準備も出来て
いなかった。教える物を何も持たぬ時に、他の
人の前に立つのは、他の人の時間を浪費する
事で、甚だ不正な事である。

三、情緒的な準備

すべての人はコンサート
を始める前にピアノを調律
しておく事が大切である事
を知っている。また長旅に
出る前に、自動車のエンジ
ンの機能を調べるのも必要
である。また心の準備をし
ておく事も大切である。即
ちわれ／＼は準備によって
福音の「みたま」を得る事
が出来るのである。

私は毎日曜日すべての人
が来る一時間前に礼拝堂へ
行くひとりの監督を知って
いるが、美しい庭や、礼拝
堂は黙想、情緒的な面に対しては、極めて効
果的な雰囲気を与えている。

イエスは「心の準備をせよ」と言われた。
われ／＼はみな心と感情の準備をする必要が

ある。ボーイ・スカウト組織のスローガンは
「備えあれ」である。主もまた言われている
「備えあれ」と。
われ／＼は常にこの言葉を心に銘じ、日常

「俳句」

東京西 小室 夕 キ

無花果のみだりに多く蜂の来る
強風におののく夜更ちちろ鳴く
爪びきのもれくる門区鶏頭燃ゆ
鬩雲赤銅のはだ勇み立つ
洗ひ物腕にあふれて鬩雲
水引の一縷垣をくぐり咲く

生活に実行すべきである。常に準備を怠らぬ
なら、あのゴルファーのように試合の時に必
ず勝利を得て、主に喜ばれる者となり得るで
あろう。

今月の出来事

「ジョン・テラーの誕生」

ジョン・テラー(大管長)は千八百八年
十一月一日、イングランド(英国)、ウエスト
モリアランドのミルソルプで生れた。そし
て千八百二十八年故国を去ってカナダに渡っ
たが、千八百三十六年パーレー・P・ブラッ
ト長老の説教を聞いて福音を信じた。千八百
三十八年十二使徒として召されて以来活潑に
福音を教え救いに導く働きに従事した。多く
の伝道部で働いたが、千八百五十年始めてフ
ランスに福音が宣べ伝えられる戸口を開い
た。またモルモン経をフランス語およびドイ
ツ語に翻訳する仕事を監督した。ジョン・テ
ラー(大管長)はきわめて誠実であつて強
い確信をもっていた。予言者ジョセフ・スミ
スがカーセーヂで殉教した際、共に銃撃され
て四個の銃丸を受けたが、後奇蹟的に癒えた
末日聖徒イエス・キリスト教会第三代の大管
長である。

「ヒーバー・J・グラントの誕生」

ヒーバー・J・グラント(大管長)は千八

人生と宗教

張

彩霞

(南部極東・台中分会)

今まで宗教に対して全々無関心だった私が今では末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるのを実に幸福であると思つてい

る。宗教は私たちの生活に於て必要である。宗教に依つて私たちの心は力づけられ、平安が得られる。真なる神を認識し、神が始終私たちと共に居られると思えば、暗い路も独りで歩く勇氣があり、どんな天災地変の下に於ても心が安静である。人間は感情的動物である故に、日常に於ての悲傷・恨怒の情緒を免れない。もしも私たちが真なる神の子であるならば祈禱によつて慰められ、また私たちの生活を純潔にし、真なる幸福をもたらす。

何人も自分自身をして人生を愉快に過し永遠の生命を得るには、真なる教会―神の

啓示に依つて回復された教会―「末日聖徒イエスキリスト教会」に加入し、此処で真なる福音を研究する事によつて、真なる神を認識

し、神の誠命を守らなければならない。「我は道なり、真理なり、生命なり、我によらでは誰にても父の御許に至る者なし」

(ヨハネ伝一四・六)

私はイエス・キリストの名に於て証しをする。宗教は人生に於て必要であり、重要である。真なる神を認識し、その誠命を守る事に依つて心の平安を感じ、幸福が得られ、永遠の生命が得られるのであると。

信仰後の感想

呂玉雲

(南部極東・台北分会)

秋風のそよ吹く涼しい或る日の午後、時
は一九五七年の十月三十日と記憶していま

百五十六年十一月二十二日ソルト・レーク市で生れた。前にも書いたことがあるが、千九百一年二月十四日、当時十二使徒評議員会の一員であつたグラント長老はロレンゾ・スノウ大管長によつて、日本伝道部を開くために選ばれ、他に三人の長老を伴つて千九百一年八月十二日横浜に到着した。日本人にとつてきわめて縁故の深い大管長である。ジョセフ・F・スミス大管長の後を受けて第七代の大管長となつた。

ジョセフ・F・スミスの誕生その他

ジョセフ・F・スミス(大管長)は千八百三十八年十一月三日ミズーリ州ファーウェストで生れた。その父はハイラム・スミス(予言者ジョセフ・スミスの兄)であるから予言者ジョセフ・スミスの甥である。生れる数日前に父と叔父(予言者)とは暴徒によつて獄へ連れ去られ、銃殺の宣告を受けた。子供の時に、教会がミズーリ州やイリノイ州で激しい迫害を受けて苦難した場面を目撃したが、千八百四十八年九月二十三日母に連れられてソルト・レークの地へ入つた。千八百五十四年十五才を越えたばかりの年令で宣教師としてハワイへ行つた。その後英国へも宣教師とし

す。

呼鈴が鳴り暫らくして女中からの知らせは外人の来客です。意外な来客で私はびっくりしました。不思議に思いながら私は玄関へ出て見たら大きい鞆をさげた温厚そうな二人の外国人でした。きつと訪ね違いじゃないか知ら？私が口を開く前にこの外人から「私たちは宣教師です、上っても良いですか？」実に上手な中国語を使っていますから私は再びびっくりしました。

あの日以来週に一度必ずお見えになり福音を伝えます。もっとも感動されたのはどんな大雨大風の中でも約束の日にはきつとおいでになることでした。

半年位福音をきいた時に、長老からバプテスマを受けなさいと言われましたが私は元来仏教徒でしたから親戚に反対されました。でも神様のお力は強いものです。福音を聞いて一年目の時（一九五八年の十月三十日）に私は自分の意志でとう／＼バプテスマを受け、信者の一人となりました。あれ以来日曜日や扶助協会等の集会には出来

る限り私は必ず参加しています。大変嬉しく感ずるのはどの長老も信者の方々も皆親切で私に良い印象を与えて下さることです。教会に入ってからいろいろ沢山勉強したと存じます。福音を聞くだけの事でなく人間の歩むべき道、物事の道理等も教えて下さいます。いろいろ勉強が出来まして私は誠に神に感謝します。神様は永遠に私たちを正しい道に指導し、私たち人民を愛して下さると私は固く信じます。だから私たち人間の間でもお互に尊敬し愛するのは自分自身を愛するのと同様に大事だと私は思っています。

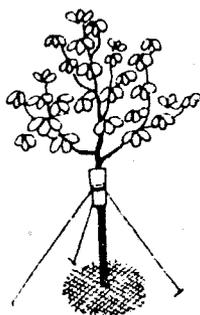
この完全な教会に恵まれて私は大変幸福に感じます。人会後の感想は良き印象と美しき事ばかりです。

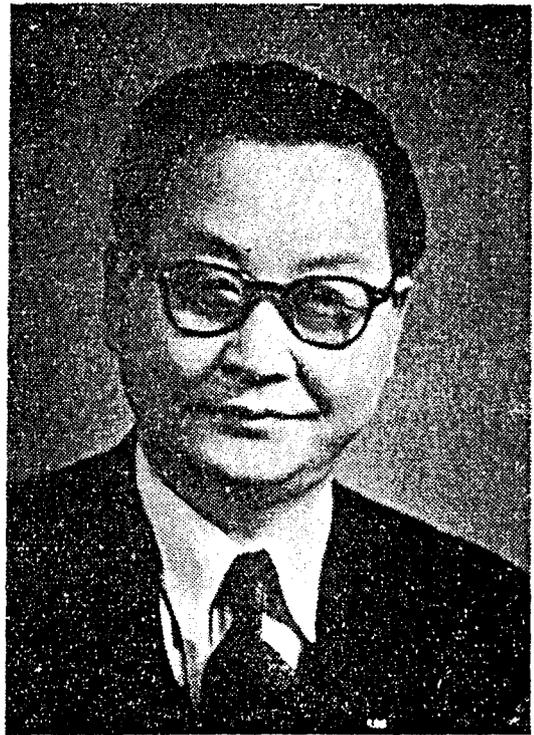
入会者も続々ふえて大変嬉しく存じます。神様から祝福されるには一日も早くバプテスマを受ける様に私はその方々の為に祈り致します。

て行き千八百六十六年七月一日、ブリガム・ヤング大管長から十二使徒定員会の一員に按手聖任された。当教会第六代の大管長である。

「千八百三十一年十一月大会」

千八百三十一年十一月には、オハイオ州ハイラムに於て一日から十二日まで四回の特別大会が開かれた。その中で一日に開かれた特別大会には「教義と聖約」の第一章、すなわち「主御自身のはしがき」が予言者ジョセフ・スミスに啓示された。また最後の集会に於て後に「教義と聖約」と呼ばれることになる「誠命の書」の重要性が考慮され、予言者はこれが終末の世に教会の基となる大切な書であってまた世を益するものであることを述べた（教義と聖約第七十章の前書参照）。また十一月三日には「教義と聖約」第三百三十三章におさめられている重要な啓示をたまわった。





回復された福音に生き抜く

金浩植兄弟、霊界に召さる

八月二十九日の新聞を握った全韓国民、特に末日聖徒たちは大きな衝撃を受けた。それは「公議中卒倒、金浩植博士重態」の見出しで書かれ

「前文教部次官であり、京城(ソウル)市教育委員会副議長である理学博士金浩植氏は……」という記事であった。

金兄弟は八月三十一日午前九時四十分、三日間の無意識のまま、義なる地上の生活を終つて去って行った。韓国国民の中の初めての改宗者であり、韓国の地に伝道を始められた金兄弟は、今度、福音を知らずに死んだ数知れぬ韓国祖先に福音を伝えるために召されて行

った。彼の五十五年の生活は愛と義の為に献げ、栄養学の世界的権威者であり、愛と情熱の教育者でもあった。また、意識を失う瞬間まで教会の為につくされた偉大なる末日聖徒の指導者であった。

金兄弟は平安北道の寒村の国民学校から義州農校、水原高農をへて日本の東北帝大を卒業するまで首席を通された秀才であった。早くからキリスト教を信奉され長老教会の長老職をも受けられた模範的な世のクリスチャンであった。

一九五〇年米国のコーネル大学で博士課程を受けるべく留学中、誠実なモルモンの会員と接した。この時の事を、「私をこの教会にひきつけたものは、私が二人の末日聖徒の家庭に訪れた時の事でした。

二人ともコーネル大学の職員でワイマン博士とウッド博士の二人であります。私はこの御二人の家庭で深い感銘を与えられました。私は未だかつて、これ程にも夫と妻、及び父親、母親と子供の間の美しい相互関係を見出し得る家庭を知りませんでした。私は彼らがひざまづいて家族の祈りを行っているのを見ました。私は余りの感動を受けたので、彼らの宗教について研究する気持になりました。ある晩、長い間勉強した後、モルモン教会のあのような立派な方々の仲間に入りたい気持になりました。そして、まず証詞をもたなければならぬことに気付きました。私はひざまづいてお祈りをし、一晩中祈り続けました。そして、この業の神性なることの証詞を得ることが出来ました。」

と、ハロルド・B・リー長老に金兄弟が語

った事がリー長老の説教「その果によりて彼らを知るべし」の中に記されている。

金兄弟は一九五一年七月二十九日、韓国国民三千万の中ただ一人の末日聖徒として、しかもジョセフ・スミスがバプテスマを受けた、サスケハナ川でバプテスマを受けられたのであった。彼はあるときこのバプテスマを受けたときの事を次のように証した事があった。

「私はサスケハナ川でバプテスマを受けて出て来た時『わが羊を養え』と云う言葉を聞いた。私はこのことは主の言葉である事を知って皆様に証する」と。

彼は死に至るまで羊を養うのに専心努力した。政界、教育界、実業界と数多い職分を持つていた金兄弟はまた、末日聖徒イエス・キリスト教会の長老であり韓国地方部長としての職も立派に果されたのであった。

福音を伝えるのに身分の上下を問わず、熱心に行ったので、見舞客千余名の大部分は同務委員を始め、著名人たちであったが彼が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である事を知らない人がなかった。

金兄弟の親しい友人である某長官は

「末日聖徒イエス・キリスト教会を私は良

く知っておりませう。金博士から耳が痛い程聞きました」。

また最後まで共に仕事をした建国大学総長劉博士は次の如く話された。

「金博士はいつでも大切な事を三つ言っておりましたがその第一は教会、第二は家族、第三は学校である」と。

葬式はブラウン副伝道部長のもとに洪兄弟の司会で行われたが、教会と建国大学校と京城(ソウル)市教育委員会の連合葬であった。

前文教部長官であり現在成均館大学総長である李博士は終始涙を流し、

「金博士が一番重要だと考え信奉した教会を全力と誠意を持って協力する事を霊前に向って誓います」と言った。

葬式には大統領、副大統領、国会議長も故人の高き徳と功績を称讃し、

李博士、劉博士、高麗大学総長、京城(ソウル)市長任氏、俞博士の追悼の辞があった。この葬式には首都警察署も交通整理と護送の労をとってくれた。

「我等が生きる道は一つに回復された福音のみである」と唱えてやまなかった金兄弟は霊界に召されたが、残された家族には会員である二人の令息(一人はパリ、他は米留學

中)と令嬢二人がある。長女の正淑姉妹はソウル東支部で非専任宣教師として任命され働いている。遺家族また彼による改宗者たちの教会活動に対する期待は大きい。金兄弟が韓国にのこされた事業はますます発展し、やがて地上の王国は確立し、シオンのステーク部の設立される日もかならず近くやって来よう。未だ福音を知らぬ人たちもその時こそ金兄弟に心から感謝をせねばならぬであろう。

金兄弟逝去の報はいち早く大管長会に電送され、彼の死をいたむ記事は九月十二日付の「チャーチ・ニューズ」に「韓国の金博士、故国にて逝去さる」の見出しで掲載された。

その記事の初めには

「彼の正義の力と神に対する信仰は韓国々民にとって偉大な光であった」と記され、更に「彼は韓国全聖徒たちの指導者であり、教師であった。彼の努力によって、彼の二人の息子、二人の娘を含む多くの韓国民は教会に入会した。彼は集会場及び宣教師の住居を探すのに特別な考慮を払い、かくして、韓国の地に於て福音を説き明かすための直き道を切り開いたのであった」と書かれていた。

続いて、金博士のこの世に於ける素晴らしい業績と経歴とが掲載されていた。

若き末日聖徒の為の

モルモン経物語

(二五)

エマ・マー・ピーターソン著
渡部正雄訳

三人のニーフアイ人

ニーフアイ第三書、第二十八章

救主は弟子たちを伝道の為に残して立去る前に、何か自分に対し望む事はないかと尋ねました。

十二人の内三人を除いたすべての人は一様に「私たちは年とって死ぬべき時が来たら速かに貴方の居ます御国に上る事が出来るよう、貴方が私たちに任じたもうた教務がその時まで終る様に願います」と言いました。

イエスは喜んでその要求に応ぜんとして彼らに言いました。「汝らはかかる事を我に願うによりてさいわいなり。さらば汝ら七十二才とならばわが王国のわがもとへ来りて

我と共に安息につけ」と。

彼はそれから何も願わなかった三人に向って「われが御父の所へ昇りて後、われが何を為さば汝らの願いにかなりや」と問われました。

この三人は他の九人の者と異った希望を持って居りそれを救主に述べる事を恐れました。だから彼らは敢てその願いを語る事が出来ず心の内に苦しみました。

そこでイエスは言われました「見よ、我は汝らが心に思うことを知る。汝らはユダヤ人がわれを十字架にかけし前われが福音を伝えし間にわれと共にありしわが愛するヨハネがわれに願いしと同じことを心に願う」と。

愛する使徒ヨハネは、救主が再臨するまで幾世紀にも亘

り人々の靈魂をキリストに導く仕事をするため地上に生存したいと望んだのでありました。今主が語る三人のニーファイ人の弟子たちもこれと同様の願いを持って居りました。

救主は喜ばれずでに他の九人の者を祝福はしましたが、また三人に向って言われました。「故に汝らはひときわさいわいなり。何となれば汝等は何時迄も死の味を知らず、またわれが天の権と天の力とを携え我が栄光を具えて降る時には一切の事、御父のみこころの如くに成就すれど其時になる迄汝らは生き永らえ、其の間に御父が世の人に為したもうすべての事を見るべき故なり。また汝らは決して死の苦痛を感じず、われが其の栄光を具えて来る時に汝等は瞬く間に其の死すべき肉体を持った者より不死不滅の者に變られ必ずわが父の王国に入りて祝福を受くべし。

またこの肉体をもちて生きながらう間にも苦痛を覚えず又世の中の人の罪惡に就て、憂い悲む以外には何の憂も悲もなかるべし。汝らは世界の存在する間、人々をわれの所へつれ来らんと望みたれば、われは以上のごとき恵みを汝らに与えん。されば汝らは喜びに満ち溢れてわが父の王国に座を占め御父がわれに完全なる喜びを与えたまうたごとく、汝らの喜びもまた完全なるべし、又汝等は我と同じ者になるべし」と。

これらの事を言い終えられてから救主は他の九人の者に

その指を触れたもうて後彼らの許から立去られました。

けれども末日に於ける主の再臨まで残った三人は主によって祝福されて彼らの肉体は変化し誰も彼らを殺す事が出来ずまた彼らは如何なる苦痛をも覚えないようになりました。

彼らは天に上げられて変貌させられ偉大な仕事をするために、地上に戻って来たのでありました。彼らはアメリカの全地をめぐり歩いて民に説教し信ずる人すべてにバプテスマを施したのであります。

教会の敵が彼らを捕えて牢獄に入れたけれどもその壁は彼らを閉込めておくことが出来ず神の力によって崩れ落ちたのであります。

彼らが深い地上の穴に入れられた時、主は彼らを救出し、悪人共は、彼等を陥れて置くだけの穴を掘ることが出来ませんでした。

三度彼らは炉の中に入れられましたが無の害をも受けませんでした。

二度も彼らは猛獣の檻の中に入れられましたが猛獣はなついて弟子たちはちようど子供らが小羊と戯れるように猛獣と遊ぶ事が出来ました。

後年、モルモンがいわゆるモルモン経典を編纂する時、この三人のニーファイ人が現れて彼の仕事を援けました。

この弟子たちはユダヤ人たちに対すると同様異邦人に対

しても奉仕するであろうことが約束されていましたが、彼らは認められず誰も彼らを知る人はないでありましょう。

彼らは主の日まで死ぬこともなく、また何の苦痛をも味われない状態で留り主の再臨の時に更に前の肉体は変化して彼らは復活した人となるであります。聖文はその後彼らは天父の国に受け入れられて天上で永久に神と共に住まうであろうと言つて居ります。

二百年間の平和

ニーフアイ第四書

暗黒の三日間に起つた暴風、地震その他の破壊のため人々は完全にへりくだりました。ニーフアイ人も、ローマン人も共に、神の権能を見、悪人共が如何に滅されたかを見ました。

十二弟子たちが民の間に教導に来た時、彼らは心から歓迎し大きな喜びを以て彼らの教えを聞きました。全地に平和は訪れ、兄弟愛が民の間にもたらされました。すべての人はお互に援け合おうとしました。

最初に救主を見た人々は聖霊に満たされて彼らの財産や食糧を分け合つて皆が同量に持つようになりました。大いなる滅亡から救われた他の人々も改宗しましたので同じ聖霊に満たされ彼らは皆すべての物を共有にして生活しました。主は民を祝福し繁栄させ彼らは火によって破滅した多く

の都市を再建しました。洪水に浸された都市または山崩れによって埋まった都市はもちろん再建されませんでした。

年が過ぎて七十二才となった時九人の弟子に死が訪れました。遂に死なない三人だけが残り残りました。彼らは仕事をなし教会は発展しました。

民は福音により生活していましたので全地に百年の平和が続きました。ローマン人とニーフアイ人は同じ様に従順でありました。彼らは一体となり、もう誰もニーフアイ人またはローマン人などと呼ぶ者がなくなりました。すべての人は神の民、イエス・キリスト教会の会員と呼ばれました。人々は皆義人となって一人の盗人も居らずその他如何なる罪も彼らの間にはなくなつてしまいました。

続いて更に百年間地上に平和が存在し人口は増加し非常に数多くなり、彼らは全地に拡がって多くの都市を建てました。

二百年間も非常に祝福されましたので人々は大変富み榮えました。過去に於て富はニーフアイ人たちに問題を起させましたが、また再び彼らはそれを繰返しました。或者たちはすべての物を共有にすることを嫌いました。彼らは欲深く利己的となり他の者よりよく見られたいと思うようになりしました。そこで彼らは立派な衣服を着、宝石やその他高価な物を身に着け始めました。彼らは多くの高価な真珠を見出しそれで贅沢な裝飾品を造つて身を飾りました。

今や彼らはその財産をお互に分け合うことなく自分自身の為に保存するようになりました。彼らは民の主体から分れ、教会に反抗して多くの悪い彼らの先祖がなしたと同様に世俗的生活をしたいと望むようになりました。

彼らは自分たち自身の教会を始め自分たちで勝手に作った教義と儀式を持つようになりました。彼らは民に対し罪の悔改めを要求することもなく如何に彼らの教会が悪かろうと民をこれに誘い入れようとしました。そしてこの教会は急速に会員がふえて行きました。

そしてこの人々は神の聖徒たちを迫害し始めました。主な



る神さまの予言者たちが多くの奇蹟を行ったにもかかわらず教会を迫害し、真の教会の多くの指導者たちを牢獄に入れました。けれども主なる神さまの力は、この兄弟たちの

手にあり彼らが命ずると牢獄は震動し崩壊しました。兄弟たちは出てまた続けて説教し、多くの奇蹟を行いました。

悪人共は、彼らを殺そうとし、特にこの死なずして生存した三人のニーファイ人たちを殺そうとはかりました。彼らはこの三人を燃える炎の中に入れ、または野獣の檻の中に入れましたが三人は何らの害をも受けませんでした。

救主が訪れてから二百三十一年経ってから民の間に大いなる分裂が起りました。そして教会に忠実な人々は再びニーファイ人として知られ、また教会およびその教えを拒絶した者は再びレーマン人として知られるようになりました。

このレーマン人たちは、ちょうど以前にレーマン人たちがなしたと同様、その子供たちにニーファイ人たちを憎む事を教えました。人々はだん／＼と彼らの仲間入りをしついに悪人は義人より遙かに多数となりました。

時が経つにつれて教会の会員の内の多くの者も罪に陥り始めました。彼らは傲慢となりレーマン人に加わらずニーファイ人の間に生活しては居たものゝ罪の生活に陥り、多くのニーファイ人たちはレーマン人と同様に罪深くなりました。

三人のニーファイ人はこの状態を大変悲しみました。キリストが来て後約三百年経った時、ほとんどのニーファイ人がレーマン人と同様に悪くなってしまうました。



梶山克宏兄弟(広島)

宣教師に任命さる

広島支部の梶山兄弟は九月二十二日アンドラス部長により宣教師に任命された。

梶山兄弟改め梶山長老は一九五七年二月十六日にバプテスマを受けてよりM I Aの役員や日曜学校の教師として働いて来た。

今年の五月より日本人宣教師は一人もなくなったが、梶山長老の任命によりローカル・ミッションナリが唯一人、外人宣教師の中にまじって活躍するわけである。

「心から柔和に、心から真面目に出て行きてイエス・キリストと彼が十字架にかゝりしことを宣べよ。而して、他人とその持てる信仰又は信仰体系のために論争することなくして、確固としたる方針をつづけよ。われこのことを誠命によりて言う。すべてこれを守らざるものは頭上に迫害を招くべし。されど之をまもるものは常に「みたま」に満されん。われこれを予言として宣言す。」

ジョセフ・スミス

伝道本部だより

解任

ローエル・J・フォックス長
老とレスター・D・ヘール長老
は十月二十六日、ラルフ・C・
ジョーンズ長老は十月二十八日
ウエイン・W・サマーズ長老、
ダグラス・L・ウォルベック長
老、デルレイ・R・ブラウ長老
K・ハート・ブロック長老、ロ
バート・T・スタウト長老、M
・ダール・ワーカー長老、V・
ガイス・ノーマン長老とウイリ
アム・トンブソン長老は十月三
十一日に解任された。

任命

ヘンリー・タカハン長老
伝道部補助組織監督
エドワード・ウエルス長老
伝道部長会書記
ローエル・アシユマン長老
沖繩地方部長
ブルース・K・マイヤーズ長老

西中央地方部長
ジュン・アダムス長老

北海道地方部長
ピーター・ラシツグ長老

甲府支部長
ケネス・マノ長老

柳井支部長
マックス・ステプルス長老

山形支部長
リチャード・ポーター長老

三宮支部長
レエモント・ハリス長老

普天間支部長
オリオン・ウツド長老

岡町支部長
カール・ホーフ長老

金沢支部長
ジャン・ウイン長老

広島支部長
ゲーリー・スミス長老

松本支部長
トーマス・アンダーソン長老

新潟支部長
ブルース・K・マイヤーズ長老

ケネス・オートン長老

福岡支部長
レオン・フラール長老

小樽支部長
テリー・バーガー長老

室蘭支部長
バプテスマ

野口加代恵

市川裕子

井出和三郎

国峰章代

中井千枝子

工藤忠三

藤谷光子

松下正子

佐々木輝子

土井繁和

今泉光津子

西野篤子

竹内道子

板垣幸藏

松本孝

笠原憲雄

鈴木貞子

二口友子

長谷川ゆき子

旭川

群馬

甲府

新府

西宮

岡町

札幌

工藤ヤエ

吉田章一

池谷昌子

登内郁子

八島悦子

高良慎清

他に韓国に十五名のバプテスマがありました。

神権

執事

新垣淳市

岡田松夫

芦田芳郎

清水巖

白石誠

関口時彦

丹下忠俊

教師

伊藤徳男

祭司

新垣義

沼野治郎

矢野昭

山岸勤

佐藤泰生

東京西

横浜

那覇

支部所在地

- 阿倍野 大阪市東住吉区田辺東町七ノ二
- 旭川 旭川市八条五丁目
- 福岡 福岡市菜院大通二ノ五五
- 群馬 高崎市並榎町二七五
- 広島 広島市古田町古江四〇〇ノ三
- 金沢 金沢市成瀬町一ノ四 野田方
- 甲府 甲府市富士見町一
- 松本 松本市沢村一六〇四
- 室蘭 室蘭市幸町八九
- 名古屋 名古屋市中区和区北山町三ノ四一
- 新潟 新潟市中大畑町五五七 金井方
- 西ノ宮 兵庫県西ノ宮市田代町一一一
- 岡町 大阪府豊中市岡町北二ノ一八
- 岡山 岡山市国富一ノ一一九 丹下方
- 小樽 小樽市富岡町一ノ三五
- 三ノ宮 神戸市灘区篠原本町四ノ三五
- 札幌 札幌市北二条西二四丁目
- 仙台 仙台市光禅寺通り二八
- 東京中央 東京都渋谷区八幡通一ノ三四
- 東京北 東京都豊島区椎名町四ノ二〇六八
- 東京南 東京都大田区南千束町二四九
- 東京西 東京都武蔵野市吉祥寺三六八
- 山形 山形市諏訪町三九七
- 柳井 山口市柳井市今市三九一
- 横浜 横浜市港北区篠原町二九
- 普天間 沖縄宜野湾村野嵩区三二八
- 那覇 沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

この度の「伊勢湾台風」は史上空前の大損害を与えた台風でありました。会員の中で同地方にお住いの方はそれぞれ或る程度の被害を受けて居られます。心からお見舞の言葉を申上げる次第でございます。(佐藤竜)

南部極東伝道部の二人の姉妹の素晴らしい証詞を読ませていただいた事を感謝しています。私たち日本人はお隣の中国人とは千年からの朋友でありました。が今この真の福音によって真の兄弟姉妹として結ばれたことはほんとうに嬉しいことと今後とも大いに文通したいと思えます。

(渡部)

宣教師の任期が二年半に短縮されて、十月末までに約二十名以上の宣教師が帰国した。今やこの「聖徒の道」が一役買って帰国した宣教師の代りに当教会の教えを広める時である。皆で

一層協力して、聖徒の道の販売に努めよう。そして一人でも多くの人たちにこの真実の福音に耳を傾けて戴こう。聖徒の道は至る所で必ず多くの迷える子羊たちを探し出すにちがいない。

(佐藤汎)

V・ガース・ノーマン長老の後任の伝道部補助組織監督のヘンリー・高橋長老が新に編集部に加わりました。翻訳物の選定広告等の面に主として働きます。

編集部の方

針としてペンネームや無記名の原稿は掲載致しません。投稿の際は支部名と名前をはっきり書くようにお願い致します。

「聖徒の道」

月刊「聖徒の道」第三卷第十一号

一九五九年十一月一日発行

尖仙 一ヶ年 三百円

一部 三十円

編集兼
発行人

ポール・C・アンドラス

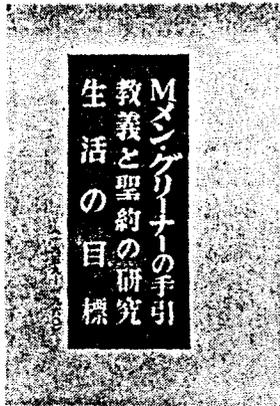
発行所

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

MIA MANUALS



MIAの手引
教義と聖約の研究
生活の目標

人生には数々の目標があるが、すべての目標を総括する唯一の目標こそ「永遠の生命」である事が強調されている。

一〇〇円



MIA役員たちの必読の書、一年間の計画、特別なプログラムが掲載されている。

一〇〇円



我らは
奉仕する

自らを忘れて「神」と「同胞」に仕えることの重要性を説いた書、MIAの年少者用テキストではあるが年長者にも内容は極めて興味のあるもの。

一〇〇円

書類整理の能率を高める

ファイルネット

(カタログ進呈)

伊藤喜商店

東京・大阪・名古屋・福岡・小倉

Stoki

と

ファイル用具

東京都中央区銀座1の3

Tel(56) 9371~5

ジェットクリッパー就航

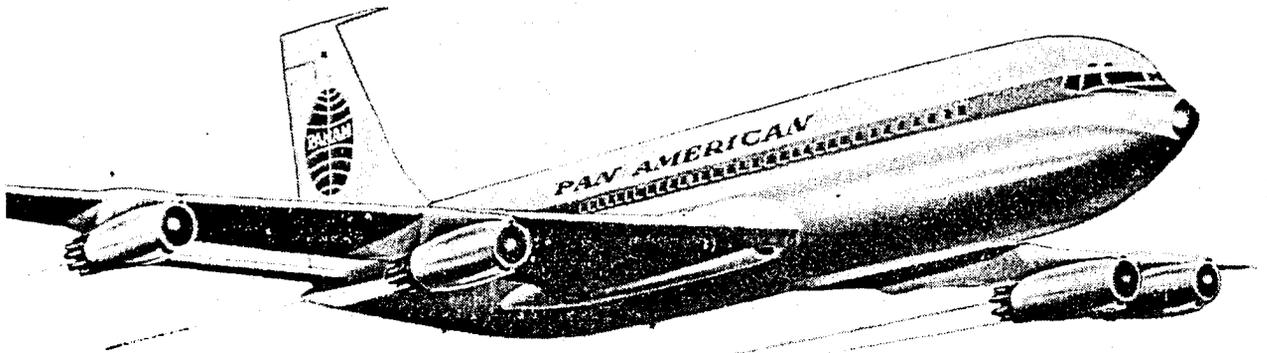
従来の飛行時間が半減されました

太平洋を横断する唯一の純ジェット旅客機

パン・アメリカンのインターコンチネンタル
ジェットクリッパー*は、世界で最も速くて
大きく、しかも航続距離の長い純ジェット旅
客機です。パン・アメリカンではこの画期的
なジェットクリッパーで東京—ハワイ—
サン・フランシスコ及びロス・アンゼルス間
の定期便を実施しております。

尙10月3日からは東京—ポートランド及び
シアトル間(ハワイ経由)も就航しております。

ハ ワ イまで 6時間40分
サン・フランシスコまで 12時間50分



パン・アメリカンの純ジェット機——太平洋横断の近道

東京から	ジェットクリッパー	ジェットプロップ	ピストンエンジン
ハ ワ イ	6時間40分	11時間5分	11時間30分
サン・フランシスコ	12時間50分	20時間0分	24時間25分
**ポートランド	12時間5分	——	20時間28分
**シアトル	13時間15分	——	18時間0分

**10月3日より就航

- 既に130,000人以上もジェットクリッパーで大西洋を横断しました
- 航空貨物は半分の時間で目的地に到着するジェットクリッパーで...

詳細は最寄りの航空代理店又は弊社営業所で承ります

東京・千代田区丸の内三菱商事ビル 電話(211)2441

大阪・東区北浜東京建物ビル 電話(26)6048-9



世界で
最も経験ある
航空会社

*合衆国特許局登録商標